

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 15 : **モダリティ (1) (Modality (1))**

ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये

**Development Team****Principal Investigator:****Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:**Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:**Prof. Emerita Yuriko Sunakawa**

University of Tsukuba

Content Reviewer:**Prof. Hideki Kishimoto**


Kobe University

Japanese

Japanese Linguistics

モダリティ (1) (Modality (1))

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	モダリティ (1) (Modality (1))
Module ID	JPN-P02-M15
Quadrant 3	Learn More

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

モダリティ (1) (Modality (1))

Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

参考文献

- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』 (第 3 章 第 4 節～第 6 節), pp.431-488. くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 II』 くろしお出版.
- 中右実 (1994) 『認知意味論の原理』 大修館書店.
- 仁田義雄・益岡隆志 (1989) 『日本語のモダリティ』 くろしお出版.
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房.
- 仁田義雄 (2009) 『日本語のモダリティとその周辺』 ひつじ書房.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版.
- 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探求』 くろしお出版.
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『新日本語文法選書 4 モダリティ』
くろしお出版.
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法 3 モダリティ』 岩波書店.
- Palmer, F. R. (2001) *Mood and Modality* (Second edition). Cambridge: Cambridge University Press.

Interesting facts

- ^{か こ ひてい} 過去や否定にできるもの、できないもの

^{すいりょう あらわ} 推量を表す「だろう」は次のように^{つぎ} 過去形や^{か こ けい ひてい けい} 否定形にすることができない。以下^{い か} の例文に付けられた「*」の記号は、これらの文が許容できないことを示す。

^{れいぶん つ} ^{きごう} ^{ぶん きょよう} ^{しめ}

^{かれ く}
(1) *彼は来るだろうた。

^{かれ く}
(2) *彼は来るだろうない。

^{がいぜんせい あらわ} しかし、蓋然性を表す「かもしれない」は、^{ひてい けい} 否定形にはできないが^{か こ けい} 過去形にすることはできる。

^{ちち しんばい}
(3) *父は心配しているかもしれなくない。

^{ちち しんばい}
(4) 父は心配しているかもしれなかった。

^{いっぼう かんさつ もと すいてい あらわ} 一方、観察に基づく推定を表す「そうだ」は^{か こ けい} 過去形にも^{ひてい けい} 否定形にもできる。

(5) 雨が降りそうだった。

(6) 雨はまだ降りそうにない。

(7) 雨はまだ降りそうになかった。

過去や否定という意味は、命題のレベルに属する意味である。そのため、モダリティ形式で過去形や否定形をとれるということは、純粋なモダリティではなく、命題とモダリティの両方の性質を持つ形式であるということになる。

上に示したように、モダリティらしさには度合いがある。上記 3 つに関しては、「だろう」がもっとも真正性の度合いが高く、「そうだ」が最も低い。そして、「かもしれない」は「だろう」に比べれば度合いが低い、「そうだ」に比べれば高い。
